

教科名	ビジネス	科目名	ビジネス基礎	単位数	2	対象	全1学年
担当者	鈴木 くに子・福田 秀隆・藤井 宏之・但木 文美恵・親泊 寛昌						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
ビジネス基礎（実教出版）			ビジネス基礎問題集（実教出版）				70
学期	月	指導内容	指導目標	時数			
1 学 期	4	○売買に関する計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合</li> <li>・商品の数量と代価</li> <li>・仕入原価と売価（販売価格）</li> </ul>	27			
	5	○売買に関する計算の基礎 1学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合</li> <li>・商品の数量と代価</li> <li>・仕入原価と売価（販売価格）</li> </ul>				
	6	○売買に関する計算の応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度量衡の換算</li> <li>・外国紙幣の換算</li> <li>・利息の計算</li> </ul>				
	7	○売買に関する計算の応用 1学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度量衡の換算</li> <li>・外国紙幣の換算</li> <li>・利息の計算</li> </ul>				
2 学 期	9	○代金決済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現金通貨</li> <li>・小切手</li> <li>・約束手形</li> <li>・為替手形</li> </ul>	34			
	10	○代金決済 ○NPOの基礎 2学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな代金決済の方法</li> <li>・NPOの基礎</li> <li>・SDGsの基礎</li> <li>※未来の授業私たちのSDGs探求BOOK</li> </ul>				
	11	○経済活動と流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通の意味</li> <li>・流通の役割</li> <li>・流通機構</li> </ul>				
	12	○経済活動と流通 2学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通をとりまく環境の変化</li> </ul>				
3 学 期	1	○『株式会社をつくろう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社をつくろ！～ミスターXからの挑戦状～</li> <li>※日本証券業協会の教材</li> <li>・SDGsの応用</li> <li>※未来の授業私たちのSDGs探求BOOK</li> </ul>	9			
	2	○『株式会社をつくろう』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社をつくろ！～ミスターXからの挑戦状～</li> <li>※日本証券業協会の教材</li> <li>・SDGsの応用</li> <li>※未来の授業私たちのSDGs探求BOOK</li> </ul>				
	3	学年末考査					
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけている。			中間・期末考査等による評価 課題・提出物等による評価			
思考・判断・表現	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけ、その成果を的確に表現する。			課題・提出物等による評価			
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの諸活動に関する意義や役割の理解及び諸問題の探求を目指して、主体的に学習に取り組むとともに、経済社会の一員としての望ましい心構えや態度を身につけている。			授業態度・出欠等による評価			

教科名	商業	科目名	簿記	単位数	4	対象	1学年
担当者	小澤 藤井 金内 瀧ヶ崎 福田						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
東京法令出版 新訂版 簿記			東京法令出版 簿記実務検定対策問題集 合格ガイド			140	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	○簿記の基本		・企業の簿記 ・資産、負債、純資産 貸借対照表			54
	5	○簿記の基本 1学期中間考査		・収益、費用 ・取引と勘定 ・仕訳と勘定への記入			
	6	○簿記の基本 ○各種取引の記帳		・仕訳帳と総勘定元帳 ・試算表 ・現金、預金の記帳1			
	7	○各種取引の記帳 1学期期末考査		・現金、預金の記帳2			
2 学 期	9	○各種取引の記帳		・現金、預金の記帳3 ・商品売買の記帳 仕入れ、売り上げ ・商品売買の記帳 商品有高帳 ・掛取引の記帳			68
	10	○各種取引の記帳 2学期中間考査		・手形取引の記帳 ・有価証券の記帳 ・固定資産の記帳			
	11	○各種取引の記帳 ○決算		・個人企業の純資産の記帳 ・個人企業の税金の記帳 ・決算整理 精算表Ⅰ			
	12	○決算 2学期期末考査		・決算整理 精算表Ⅱ			
3 学 期	1	○決算		・決算整理 ・損益計算書 ・貸借対照表 ・伝票			18
	2	○決算整理		・費用、収益の繰り延べと見越し ・8桁 精算表			
	3	学年末考査					
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	中間・期末考査等 提出課題[実技による習熟度・定着度]			中間・期末考査等による評価 提出課題による評価			
思考・判断・表現	簿記の原理を活用しての論理的思考 財務諸表作成における完成度 電卓を使用した計算技術			仕訳・帳簿・財務諸表作成技術による評価 提出課題による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 提出課題状況等			自主性・積極性・正確性等による総合評価			

教科名	ビジネス	科目名	情報処理	単位数	2	対象	全1学年
担当者	益田 昌味・松本 進・金内 真・瀧ヶ崎 恵美子・小澤 一成・藤井 宏之・早田 智洋						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
情報処理（東京法令出版）						70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	○ビジネス文書の作成		・文章の表現 ・文章の作成 ・文書の作成			27
	5	○ビジネス文書の作成		・文章の表現 ・文章の作成 ・文書の作成			
	6	○ビジネス文書の作成 ○ビジネスと情報		・ビジネスと情報 ・ビジネスとコンピュータ利用 ・コンピュータの五大装置 ・パソコンのハードウェア ・パソコンのソフトウェア			
	7	○ビジネスと情報 1学期期末考査					
2 学 期	9	○ビジネス情報の処理と分析		・表計算ソフトの基礎知識 ・表計算ソフトの基本操作			34
	10	○ビジネス情報の処理と分析		・基本的な関数 ・グラフの基礎知識			
	11	○ビジネス情報の処理と分析		・基礎的なグラフの作成 ・発展的な関数			
	12	○プレゼンテーション 2学期期末考査		・プレゼンテーションの技法			
3 学 期	1	○プレゼンテーション		・プレゼンテーションの技法 ・ビジネスとプレゼンテーション			9
	2	○プレゼンテーション		・ビジネスとプレゼンテーション			
	3	学年末考査					
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	情報処理に関する情報を収集・分析・表現するための基礎的・基本的な知識と、利用目的に応じてコンピュータの機能を用いて情報を適切に活用できる技術を身につけている。			期末考査・実技テスト等による評価			
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、収集した情報を分析したり効果的に表現することができる。			課題・提出物等による評価			
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの諸活動における情報処理の重要性を理解し、情報の収集・分析・表現の基礎的・基本的な知識と技術を身につけようと意欲的に実習に取り組んでいる。			授業態度・出欠等による評価			

教科名	ビジネス	科目名	総合実践	単位数	2	対象	第2学年
担当者	及川 泰徳・益田 昌味・但木 文美恵						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文頻出テーマ解説集 2020現代を知るplus (第一学習社)</li> <li>・図解でわかる時事重要テーマ100 2021年度版 (日経HR)</li> <li>・自作プリント</li> </ul>				70
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学期	4	オリエンテーション 第1章 生活・社会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			26
	5	第1章 生活・社会 第2章 環境問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
	6	第3章 国際問題・異文化理解 第4章 日本語・日本人		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
	7	1学期のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
2 学期	9	第5章 教育問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			30
	10	第6章 福祉		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
	11	第7章 政治・経済 第8章 情報メディア		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
	12	2学期のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
3 学期	1	第9章 科学技術		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			14
	2	第10章 医療・看護問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
	3	1年間のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で話題となっている社会問題についてテーマを取り上げ、その背景や課題を知り、解決のための取り組みについて考えていく。</li> <li>・調査研究、グループワーク、発表を多く取り入れる。</li> </ul>			
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	各指導内容について、日本の時事ニュースや社会問題に関する知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ファイル提出</li> <li>・グループワークや発表</li> <li>・レポート提出</li> </ul>			
思考・判断・表現	各指導内容について、日本の時事ニュースや社会問題に関して思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ファイル提出</li> <li>・グループワークや発表</li> <li>・レポート提出</li> </ul>			
主体的に学習に取り組む態度	年間の授業を通じて、日本の時事ニュースや社会問題に関する知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ファイル提出</li> <li>・グループワークや発表</li> <li>・レポート提出</li> </ul>			

教科名	ビジネス科	科目名	ビジネス選択 ビジネスコンピューティング	単位数	4	対象	2学年
担当者	早田 智洋						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			自作プリント				140
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	Adobe Photoshop CC 画像編集ソフトの習熟		WEB表示に適した画像の編集・作成 Photoshopの活用【画像統合】			51
	5	Adobe Photoshop CC 画像編集ソフトの習熟		WEB表示に適した画像の編集・作成 Photoshopの活用【色調補正】			
	6	Adobe Photoshop CC 画像編集ソフトの習熟		WEB表示に適した画像の編集・作成 Photoshopの活用【人口着色】			
	7	Adobe Photoshop CC 画像編集ソフトの習熟		WEB表示に適した画像の編集・作成 Photoshopの活用【文字加工】			
2 学 期	9	Adobe Illusurator CC ドローイングソフトの習熟		ポスター制作に適した図・線・文字・画像の編集・作成 Illustratorの活用【図形描画・機能利用】			67
	10	Adobe Illusurator CC ドローイングソフトの習熟 地域団体からの依頼POP制作		ポスター制作に適した図・線・文字・画像の編集・作成 Illustratorの活用【図形描画・機能利用】			
	11	Adobe Illusurator CC ドローイングソフトの習熟 地域団体からの依頼POP制作		ポスター制作に適した図・線・文字・画像の編集・作成 Illustratorの活用【ペンツール・曲線描画・トレース】 実践的広告デザイン実習の企画・計画・制作・印刷			
	12	Adobe Illusurator CC ドローイングソフトの習熟 地域団体からの依頼POP制作		ポスター制作に適した図・線・文字・画像の編集・作成 Illustratorの活用【文字・タイポグラフィ】 実践的広告デザイン実習の企画・計画・制作・印刷			
3 学 期	1	Adobe Premiere CC 動画編集ソフトの習熟		動画再生に適した動画・静止画・音楽の編集・作成 Premiereの活用【シーケンス設定・ワークエリア理解】			22
	2	Adobe Premiere CC 動画編集ソフトの習熟		動画再生に適した動画・静止画・音楽の編集・作成 Premiereの活用【タイムライン設定・エフェクト設定】 プロモーションビデオの制作			
	3	Adobe Premiere CC 動画編集ソフトの習熟		動画再生に適した動画・静止画・音楽の編集・作成 Premiereの活用【トランジション設定・エフェクトコントロール】 プロモーションビデオの制作			
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	技能習熟実技テスト 提出課題[技術の習熟度・定着度]			パフォーマンス評価 ※提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・表現	提出課題[作品の表現技法] 制作書式の完成度 [イメージシート・コピーシート・サムネイル] コンセプトシートの完成度			パフォーマンス評価 ※提出課題 課題評価表による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			ポートフォリオ評価			

教科名	ビジネス	科目名	マーケティング	単位数	4	対象	2学年
担当者	瀧ヶ崎 恵美子 ・ 鈴木 くに子						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
マーケティング (東京法令出版)			マーケティング ワークブック (東京法令出版)			140	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	○現代社会とマーケティング		マーケティングの考え方や内容の変化、様々な分野でマーケティングが重要となっている現状を理解する。消費者の権利や企業の社会的責任について、基礎的・基本的な知識を身につける。			51
	5	○現代社会とマーケティング ○消費者の購買行動		消費者心理について理解し、様々な要因が購買行動に影響することを理解する。購買決定プロセスの5段階を理解する。			
	6	○消費者の購買行動		製品ライフサイクルについて理解し、それぞれの時期に必要なマーケティングの展開方法考えることができる。顧客満足のために必要なマーケティングの取り組みについて、基礎的・基本的な知識を身につける。			
	7	○マーケティングのプロセス		マーケティングのプロセスやSWOT分析について理解し、身近な企業の分析をする。ポジショニングやマーケティング・ミックス、マーケティング・マネジメントについての知識を身につける。			
2 学 期	9	○市場調査		市場調査のプロセスや調査の方法について基礎的・基本的な知識と技術を身につける。調査報告書とプレゼンテーションの作成方法を理解し、結果を相手にわかりやすく伝える。			67
	10	○市場調査 ○商品計画		販売計画と販売予測の意義、必要性、販売計画の立案、在庫管理の方法について理解する。			
	11	○商品計画 ○価格政策		価格政策の重要性や種類と内容について、基礎的・基本的な知識を身につける。			
	12	○価格政策		さまざまな小売価格について理解する。独占禁止法により禁止されている価格政策の基本的な知識と技術を身につける。			
3 学 期	1	○チャネル ○プロモーション		チャネルの種類や特徴、チャネル政策について理解する。			22
	2	○プロモーション		販売促進の重要性および広告活動や販売員活動など、さまざまな販売促進の基礎的な知識を身につける。身近な企業の販売促進の方法について調べ、どんな工夫が必要か考えることができる。			
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	マーケティングに関する基本的な知識と技術を身につけている。また、これらの知識と技術を適切に活用して効果的なマーケティングの実践に役立てることができる。			定期考査等による評価 取り組み・課題・提出物等による評価			
思考・判断・表現	マーケティングの諸問題を経済生活との関連から適切に把握し、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を利用して適切に判断できる。また、情報を収集・整理し、それらを自分の言葉で表現できる。			取り組み・課題・提出物・発表等による評価			
主体的に学習に取り組む態度	関心をもってマーケティングに関わる課題とその解決策の探求を目指し、自ら調べたり質問したりしながら意欲的に学習に取り組んでいる。			出欠状況・取り組み・課題・提出物等による評価			

教科名	ビジネス	科目名	財務会計 I	単位数	4	対象	第2学年
担当者	及川 泰徳						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
財務会計 I (東京法令出版)			全商簿記実務検定1級 合格ガイド (東京法令出版) 自作プリント				140
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	オリエンテーション 第1編 第1章 企業会計の意義と役割		企業会計の意義と役割、財務会計の機能および会計法規と会計基準を取り扱い、財務会計の概要について理解させる。			51
	5	第2章 会計法規と会計基準 第3章 株式会社の設立開業 第4章 当期純利益の計上と株主配当 第5章 社債		企業会計の意義と役割、財務会計の機能および会計法規と会計基準を取り扱い、財務会計の概要について理解させる。			
	6	第6章 株式会社の税務 第2編 第1章 貸借対照表の概要 第2章 資産の意味と分類 第6章 負債の意味と分類		資産・負債・純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成を取り扱い、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得させる。			
	7	1学期のまとめ					
2 学 期	9	第7章 純資産の意味 分類 第8章 貸借対照表の作成 第3編 第1章 損益計算書の意味と区分 第2章 費用・収益の計上		損益計算の意味と損益の区分・就役・費用の認識と測定及び損益計算書の作成を取り扱い、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得させる。			67
	10	第3章 損益計算書の作成 第4章 その他の財務諸表		損益計算の意味と損益の区分・就役・費用の認識と測定及び損益計算書の作成を取り扱い、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得させる。			
	11	第4編 第1章 財務諸表の意義 第2章 財務諸表分析 第5編 第1章 連結財務諸表		連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表作成の基礎を取り扱い、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得させる。			
	12	2学期のまとめ 検定対策問題演習		全商簿記実務検定1級受験に向けた問題演習を行う。問題演習については、間違えたところを何回も復習して確実に解けるようにする。			
3 学 期	1	検定対策問題演習		全商簿記実務検定1級受験に向けた問題演習を行う。問題演習については、間違えたところを何回も復習して確実に解けるようにする。			22
	2	外貨建取引 リース会計 連結会計		外貨建取引・リース会計・連結会計を取り扱い、貸借対照表に関する各種の会計処理を行うための基礎的な知識と技術を習得させる。日商簿記検定で改定されたポイントを中心に学習する。			
	3	3学期のまとめ					
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	財務会計の意義や会計法規および会計基準について理解しているかどうか。 財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけているかどうか。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ファイル提出</li> <li>・小テスト</li> <li>・授業態度</li> </ul>			
思考・判断・表現	会計に関する法規や基準の変更に対応し、会計情報を利害関係者に提供する能力や提供された会計情報をビジネスの諸活動に活用する思考が深められているかどうか。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ファイル提出</li> <li>・小テスト</li> <li>・授業態度</li> </ul>			
主体的に学習に取り組む態度	財務会計の学習に関心を持ち、その知識と技術の習得を理解を深めることに意欲的に取り組んでいるかどうか。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ファイル提出</li> <li>・小テスト</li> <li>・授業態度</li> </ul>			

教科名	ビジネス	科目名	コミュニティデザイン	単位数	3	対象	2年生
担当者	親泊・藤井						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	ガイダンス・コミュニティデザインについて		学校設定科目としての「コミュニティデザイン」の理解			45
	5	豊島区千早地域文化創造館プロジェクト		豊島区の地域公民館5か所を提案する。基礎知識としての豊島区の理解			
	6	豊島区千早地域文化創造館プロジェクト		豊島区の地域公民館5か所を提案する。基礎知識としての豊島区の理解			
	7	豊島区千早地域文化創造館プロジェクト		豊島区の地域公民館5か所を提案する。基礎知識としての豊島区の理解			
2 学 期	9	コミュニティデザインの事例研究		コミュニティデザインの事例からの講義・活動			55
	10	コミュニティデザインの事例研究		コミュニティデザインの事例からの講義・活動			
	11	自己研究（ハローマイプロジェクト）		様々なコミュニティの研究を実施する			
	12	自己研究（ハローマイプロジェクト）		様々なコミュニティの研究を実施する			
3 学 期	1	自己研究（ハローマイプロジェクト）		様々なコミュニティの研究を実施する			5
	2	自己研究発表会		様々なコミュニティの研究を発表する			
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	プロジェクト下の活動 提出課題[活動の定着度]			実践活動とプレゼンテーション評価 提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・表現	提出課題[課題の完成度] 論述による完成度			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			ポートフォリオ・コミュニティデザインノート評価			



教科名	ビジネス	科目名	ビジネス実務	単位数	3	対象	2 学年
担当者	鈴木 くに子						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級（実教出版）				105
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	オリエンテーション ビジネス文書（速度・文書） 筆記演習問題		ワープロソフトの基本操作や応用操作を習得する。 社外文書の作成方法を身につける。 機械、機械操作、文書の種類・作成、ことばの知識に関する知識を身につける。			40
	5	ビジネス文書（速度・文書） 筆記演習問題 中間考査の実施		表やオブジェクトを含む社外文書を体裁よく作成する。 機械、機械操作、文書の種類・作成、ことばの知識に関する知識を身につける。			
	6	ビジネス文書（速度・文書） 筆記演習問題		表やオブジェクトを含む社外文書を体裁よく作成する。 機械、機械操作、文書の種類・作成、ことばの知識に関する知識を身につける。			
	7	ビジネス文書（速度・文書） 筆記演習問題 期末考査の実施		表やオブジェクトを含む社外文書を体裁よく作成する。 機械、機械操作、文書の種類・作成、ことばの知識に関する知識を身につける。			
2 学 期	9	ビジネス情報の処理・資料の作成		表計算ソフトの基本操作や応用操作を習得する。			40
	10	ビジネス情報の処理・資料の作成 中間考査の実施		表計算ソフトの基本操作や応用操作を習得する。 伝票データや資料や指示された内容をもとに、自ら判断し、情報をまとめ、見やすい資料を作成する。			
	11	ビジネス情報の処理・資料の作成		伝票データや資料や指示された内容をもとに、自ら判断し、情報をまとめ、見やすい資料を作成する。			
	12	ビジネス情報の処理・資料の作成 期末考査の実施		伝票データや資料や指示された内容をもとに、自ら判断し、情報をまとめ、見やすい資料を作成する。			
3 学 期	1	企業の組織と仕事		企業の組織と意思決定の流れを理解する。 職業人としての心構えと良好な人間関係の構築の必要性、職場における人間関係と接し方、チームで働くことの意義について考える。			25
	2	ビジネスマナーとコミュニケーション 実技テスト		挨拶、名刺交換、電話対応、席次、冠婚葬祭のマナーについて理解し、実習を通して習得する。			
	3	学年末考査					
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	情報を分析・表現するための基礎的・基本的な知識と、目的に応じてコンピュータの機能を活用できる技能を身につけている。企業の組織やビジネスマナーについて理解し、実践することができる。			定期考査、実技テスト等による評価 授業態度、課題・提出物等による評価			
思考・判断・表現	自ら思考を深め、状況に応じて適切な判断や処理をすることができる。基礎的・基本的な知識と技術を活用して表現することができる。			定期考査、実技テスト等による評価 出欠状況、授業態度、課題・提出物等による評価			
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの諸活動におけるビジネス実務の重要性を理解し、情報の収集・分析・表現における知識と技術を身につけようと意欲的に実習に取り組んでいる。			定期考査、実技テスト等による評価 出欠状況、授業態度、課題・提出物等による評価			

教科名	ビジネス	科目名	原価計算	単位数	3	対象	2学年
担当者	松本 進・益田 昌味						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
『原価計算』（東京法令出版）			問題集『簿記実務検定対策問題集合格ガイド10訂版』（東京法令出版） 自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	○原価と原価計算について		原価の概念と原価計算 製造業における簿記の特色としくみ			40
	5	○原価の費目別計算について		材料費の計算と記帳 労務費の計算と記帳			
	6	○原価の費目別計算について		経費の計算と記帳 個別原価計算			
	7	○原価の部門別計算と製品別計算について		個別原価計算			
2 学 期	9	○原価の部門別計算と製品別計算について		原価の部門別計算 総合原価計算			40
	10	○製品の完成・販売と決算について		製品の完成と販売 本社・紅葉会計 製造業の決算			
	11	○標準原価計算について ○直接原価計算について		標準原価計算の目的と手続き 原価差異の原因別分析 損益計算書の作成 利益計画と直接原価計算			
	12	総合基礎演習		学習した知識を生かし、演習を行う。			
3 学 期	1	総合実践演習		学習した知識を生かし、演習を行う。			25
	2	○発展演習（日商2級工業簿記に向けて）		固定予算を用いた製造間接費の差異分析 標準原価計算のシングルプランの記帳法 直接原価計算の固定費調整			
	3	総合演習		学習した知識を生かし、演習を行う。			
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	中間・期末考査、授業内考査等[習熟度・定着度]			各考査素点による評価			
思考・判断・表現	原価の概念に関する論理的思考 取引の仕訳や記帳、計算の判断力（差異分析など） 電卓を使用した計算技術			提出課題による評価（仕訳・帳簿作成・差異分析の技術）			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			各項目（出席率・授業態度・ファイル提出・提出課題提出状況）の総合評価			

教科名	ビジネス	科目名	総合実践Ⅱ	単位数	3	対象	3年生
担当者	親泊・瀧ヶ崎・金内・松本・但木・鈴木						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			独自プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	オリエンテーション		社会時事に関する基礎知識を理解させる。また、社会の現状分析などを極める			45
	5	新型コロナウイルスに関する各国の対応について		新聞記事を使用し、新型コロナウイルスに対する各国の取り組みとその内容を精査して、自己の発表準備につなげる			
	6	オリンピック・パラリンピックについて		オリンピック・パラリンピック教育の一環としての理解度を高める			
	7	社会分析と論述の書き方について		社会での出来事を多角的に分析することと、社会の現状分析の手法を理解する。			
2 学 期	9	社会問題の理解と論述の作成		自分が考える社会問題等整理し、論述の作成を理解する。			54
	10	社会問題の理解と論述の作成		自分が考える社会問題等整理し、論述の作成を理解する。			
	11	論述をもとにしたプレゼンテーション		論述からのプレゼンテーション技術のマスター			
	12	論述をもとにしたプレゼンテーション		論述からのプレゼンテーション技術のマスター			
3 学 期	1	論述をもとにしたプレゼンテーション		論述からのプレゼンテーション技術のマスター			6
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	学期末（知識技能）筆記テスト 提出課題[論述の習熟度・定着度]			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・表現	提出課題[課題の完成度] 論述による完成度			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			ポートフォリオ・経済ノート評価			

教科名	ビジネス	科目名	課題研究 Webデザイン	単位数	3	対象	3学年
担当者	及川 泰徳・瀧ヶ崎 美恵子						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			自作プリント				105
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	1. オリエンテーション 2. WEBサイト制作の基礎		・授業の進め方と年間スケジュールの確認 ・インターネットの仕組みやWEBサイトの構成など、webに関する基礎的な知識を理解させる。			49
	5	3. HTMLの基礎		・HTMLによるプログラミングについて、架空のWebサイトの作成をおこない、WEBページの文書構造に関する知識と技能を理解させる。			
	6	4. HTMLとCSSの基礎		・CSSによるプログラミングについて、架空のWebサイトの作成をおこない、WEBページの見栄えを整えるための知識と技能を理解させる。			
	7	4. HTMLとCSSの基礎		・HTMLとCSSによるプログラミングについて、架空のWebサイトの作成をおこない、WEBページの知識と技能を理解させる。			
2 学 期	9	5. WEBサイトの公開		・WebサーバーやFTPソフトなど、WEBサイトを公開するために必要な機器やソフトウェアや公開の方法についての知識と技能を理解させる。			50
	10	6. WEB素材の作成		・WEBサイト制作に必要なである、写真・ロゴ・ボタン・アイコンなどのWEB素材の作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			
	11	7. デザインカンプの作成実習		・WEBサイト制作に必要なである、ワイヤーフレームやデザインカンプの作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			
	12	7. デザインカンプの作成実習		・WEBサイト制作に必要なである、ワイヤーフレームやデザインカンプの作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			
3 学 期	1	8. WEBページに動きを出す 9. スマートフォン用WEBサイトの作成		・WEBサイトに動きを出すための手法や、スマートフォンやタブレットなど、さまざまなデバイスに対応した「レスポンシブWEBデザイン」の作成をおこない、より効果的なWebサイトの作成に関する知識と技能を理解させる。			6
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	各指導内容について、WEBデザインに関する知識及び技能の習得状況を評価の観点とする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記テスト</li> <li>・提出課題</li> <li>・ファイルの提出</li> </ul>			
思考・判断・表現	各指導内容について、より効果的なWebサイトを作成するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価の観点とする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題</li> <li>・ファイルの提出</li> <li>・授業レポートの提出</li> </ul>			
主体的に学習に取り組む態度	年間の授業を通じて、Webデザインに関する知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、主体的に学習に取り組む態度であるかを評価の観点とする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題</li> <li>・ファイルの提出</li> <li>・授業レポートの提出</li> </ul>			

教科名	ビジネス	科目名	課題研究「ソーシャルビジネス」	単位数	3	対象	3学年選択者
担当者	藤井 宏之						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
						105	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	○国際理解教育 ○開発教育		・「開発途上国」を理解する。		40	
	5	○国際理解教育 ○開発教育 ○地球ひろば訪問		・「開発途上国」の社会課題を可視化して理解する。 ・「開発途上国」と日本、世界の課題と日本のつながりを認識する。			
	6	○持続可能な開発目標（SDGs）		・経済、ビジネスにおけるSDGsの目的・内容・価値を理解する。 ・パラグアイ共和国におけるSDGsに向けた日本の取り組みを理解する。			
	7	○持続可能な開発目標（SDGs）		・パラグアイ共和国におけるSDGsにむけたさまざまな取り組みの発表。			
2 学 期	9	○プロジェクト学習		・「パラグアイの小規模農家の輸出農作物安全性向上プロジェクト（ゴマ栽培）」について理解解決「IDEAL」5つのステップを用いる。		55	
	10	○プロジェクト学習 ○パラグアイの日本人起業家講演 ○パフォーマンス課題		・「パラグアイの小規模農家の輸出農作物安全性向上プロジェクト（ゴマ栽培）」について理解解決「IDEAL」5つのステップを用いる。			
	11	○パフォーマンス課題		・SDGsの視点から「パラグアイの小規模農家の輸出農作物安全性向上プロジェクト（ゴマ栽培）」の課題解決をすることを設定し、ポスターセッションを英語でおこなう。			
	12	○パフォーマンス課題		・SDGsの視点から「パラグアイの小規模農家の輸出農作物安全性向上プロジェクト（ゴマ栽培）」の課題解決をすることを設定し、ポスターセッションを英語でおこなう。			
3 学 期	1	○地球ひろば訪問 ○青年海外協力隊講演 ○1年間のまとめ		・地球ひろばへ訪問して、SDGsについて理解する。 ・青年海外協力隊の方の講演を聞き、JICAの活動等を理解する。		10	
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	「開発途上国」や「SDGs」、「パラグアイ共和国」に関する基礎的・基本的な知識と、情報を適切に活用できる技術を身につけている。			授業態度、課題・提出物等による評価			
思考・判断・表現	「SDGs」と「ビジネス」の視点から「社会課題」の課題解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、収集した情報の分析したり効果的に表現することができる。			課題・提出物等による評価			
主体的に学習に取り組む態度	「SDGs」と「ビジネス」の視点から「社会課題」の課題解決するための、情報の収集・分析・表現の基礎的・基本的な知識と技術を身につけようと意欲的に取り組んでいる。			授業態度・出欠等による評価			

教科名	商業	科目名	課題研究（会計）	単位数	3	対象	HR31～HR36
担当者	福田秀隆						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			プリント等			105	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級の基礎問題演習		全商簿記検定1級・日商簿記検定2級の分野別基礎演習問題を通して、簿記会計の内容の理解を図る。		45	
	5	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級の基礎問題演習		全商簿記検定1級・日商簿記検定2級の分野別基礎演習問題を通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	6	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級の基礎問題演習		全商簿記検定1級・日商簿記検定2級の実践演習問題を通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	7	・期末確認テスト		簿記での大学受験に対応した計算力を身につけるため、簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
2 学 期	9	・大学センター試験の「簿記」		簿記での大学受験に対応した計算力を身につけるため、簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。		45	
	10	・財務諸表の作成 ・確認テスト		決算整理事項から、貸借対照表・損益計算書の財務諸表を簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	11	・連結会計(連結1年度)		連結財務諸表作成のために、個別会計上の処理を連結ベースの処理に連結修正仕訳として行い、簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。			
	12	・期末確認テスト					
3 学 期	1	・連結会計(連結2年度) ・まとめ		連結財務諸表作成のために、個別会計上の処理を連結ベースの処理に連結修正仕訳として行い、簿記会計の基礎プリントを通して、簿記会計の内容の理解を図る。 まとめ		15	
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	期末確認テスト等 提出課題[実技による習熟度・定着度]			期末確認テスト等による評価 提出課題による評価			
思考・判断・表現	会計の原理を活用しての論理的思考 財務諸表作成における完成度 電卓を使用した計算技術			仕訳・帳簿・財務諸表作成技術による評価 提出課題による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 提出課題状況等			・自主性・正確性等による総合評価			

教科名	ビジネス	科目名	課題研究「観光」	単位数	3	対象	3学年
担当者	益田 昌味・但木 文美恵						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			自作プリント				105
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	オリエンテーション 日本のインバウンドの現状についての調査 観光に関する統計調査・現状分析		現状のデータをもとに分析し、自分なりに考察させる			49
	5	観光に関する統計調査・現状分析 観光に関する日本の取り組みや動向調査 訪日外国人の旅行内容の比較・調査		現状のデータをもとに分析し、自分なりに考察させる インバウンドの取り組みを理解させる			
	6	旅行消費額に関する統計調査・現状分析 旅行プランニングの創造		現状のデータをもとに分析し、自分なりに考察させる 観光と経済効果のつながりを理解させる 各自、各グループの視点で観光資源を掘り出し、プラン ニングさせる			
	7	旅行プランニングの成果発表 筆記考査		各自、各グループの視点で掘り出した観光資源の発表・講			
2 学 期	9	日本人のアウトバウンドに関する調査・分析		現状のデータをもとに分析し、自分なりに考察させる			50
	10	地方の観光振興について調査・分析 観光業界研究		現状のデータをもとに分析し、自分なりに考察させる 観光業界について理解し、問題や課題を発見できるか			
	11	旅行プランニングの創造 観光業界研究		各自、各グループの視点で観光資源を掘り出し、プラン ニングさせる 観光業界について理解し、問題や課題を発見できるか			
	12	旅行プランニングの創造		各自、各グループの視点で観光資源を掘り出し、プラン			
3 学 期	1	旅行プランニングの成果発表		各自、各グループの視点で掘り出した観光資源の発表・講			6
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	観光に関わる基本的な知識を理解しているかどうか。知識をいかし、プランニングできているかどうか。			学期末考査素点による評価 提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・表現	提出課題の完成度[プランニングシート等]			提出課題 課題評価表による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			各項目（出席率・授業態度・ファイル提出・提出課題提出状況）の総合評価			

教科名	ビジネス科	科目名	課題研究「経済」	単位数	3	対象	3 学年
担当者	金内 真 ・ 親泊 寛昌						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	オリエンテーション		経済学と経営学の違いを理解させる。また、経済車体（政府・企業・家計）の関係から社会の基礎を理解させる。			49
	5	行動経済学		行動経済学の基礎・基本から人間の心理から起こる経済への影響と理解させる。			
	6	ケインズ経済学		ケインズ経済学として、政府が社会に介入する経済学を理解させる。また、その影響や実際の国々の状況を理解させる。			
	7	古典派経済額		身近な経済事例としてのトレードオフ・機会費用・大きな政府・小さな政府の理解からの古典派経済学をさらに理解させる。			
2 学 期	9	ドラッカーの経営学と経済の影響		ドラッカーによるマネジメントとしてのマーケティング、イノベーションとのかかわりを理解させる。			50
	10	民間企業の経営（イオンの経営他）		実際の企業状況とドラッカーの経営学との比較検証し、実際の社会への影響を理解させる。			
	11	インセンティブとモラルハザード		経済のキーワード「インセンティブ」と「モラルハザード」の影響と効果を学ぶ			
	12	投資についての学び		株式投資を実施する。みずほ証券との連携授業の中で、投資が社会に与える影響を自ら理解させる。			
3 学 期	1	投資についての学び		株式投資を実施する。みずほ証券との連携授業の中で、投資が社会に与える影響を自ら理解させる。			6
	2	様々な比較分析・検証		経済分析や経営分析の手法を使い、何かと何かを比較して経済への影響を理解させる。			
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	学期末（知識技能）筆記テスト 提出課題[論述の習熟度・定着度]			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・表現	提出課題[課題の完成度] 論述による完成度			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			ポートフォリオ・経済ノート評価			



教科名	ビジネス科	科目名	課題研究 「広告企画」	単位数	3	対象	3学年
担当者	早田 智洋						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	販売促進の概要		プロモーションミックス4P 消費者ニーズ 購買効果			49
	5	プロモーション 広告とは		消費者理解 プロモーションの流れ 広告の種類・主体別対象者別分類			
	6	広告業界の概要 広告ビジネス		広告会社・業界の現状と分類 広告業の業務の流れ			
	7	デザインの基礎 アイデアの発想法		デザインの目的の具体化 コンセプトの作成・視覚化 ウェビング法・チェックリスト			
2 学 期	9	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について 実践的広告デザイン実習の企画・計画・制作・印刷			50
	10	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について 実践的広告デザイン実習の企画・計画・制作・印刷			
	11	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について 実践的広告デザイン実習の企画・計画・制作・印刷			
	12	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について 実践的広告デザイン実習の企画・計画・制作・印刷			
3 学 期	1	広告企画演習 ※広告賞・公募コンテストへの参加 企業・地域団体からの依頼POP制作		広告戦略について 実践的広告デザイン実習の企画・計画・制作・印刷			6
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	学期末（知識技能）筆記テスト 技能習熟実技テスト 提出課題[技術の習熟度・定着度]			パフォーマンス評価 提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・ 表現	提出課題[作品の表現技法] 制作書式の完成度 [イメージシート・コピーシート・サムネイル] コンセプトシートの完成度			パフォーマンス評価 提出課題 課題評価表による評価			
主体的に 学習に 取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			ポートフォリオ評価			

教科名	ビジネス	科目名	課題研究「商品開発」	単位数	3	対象	3学年
担当者	松本 進 ・ 鈴木 くに子						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
なし			自作プリント			105	
学期	月	指導内容		指導目標		時数	
1 学 期	4	オリエンテーション 商品と商品開発		商品の成り立ちおよび何を商品として考えるかについて理解する。		49	
	5	商品と商品開発 商品の多様化 商品調査		技術革新、経済の国際化、消費生活の変化、地球環境の保全などによる多様な商品の提供について考えを深める。商品開発の意義、商品のライフサイクル、商品開発の手順と考え方について理解する。			
	6	商品と商品開発 商品調査 商品の企画		消費者を取り巻くさまざまな環境分析の内容とその結果をもとに企業が意思決定を行う過程を理解する。 情報を収集・整理し、自分の言葉で発表できる。 身近な企業の商品企画・商品開発事例を学習する。			
	7						
2 学 期	9	商品の企画 商品企画演習		身近な企業の商品企画・商品開発事例を学習する。 市場調査の方法や商品コンセプトについて理解する。 ブレインストーミングやKJ法を用いて商品コンセプトを考える演習をする。		50	
	10	商品の企画 商品企画演習		商品名・商品コンセプト・キャッチコピー・商品イメージ・開発背景・競合商品に対する優位性を含めた、具体的な商品企画書を作成する。			
	11	商品の開発 商品企画演習		商品企画書に基づき、社内むけのプレゼンテーションを行う実習をする。 商品の仕様と仕様書、試作について理解する。			
	12	商品の開発 商品企画演習 商品開発とデザイン		商品テストによって、商品コンセプトの仮説検証を行うことの重要性について理解する。 パッケージデザインの機能や種類について理解し、具体的な事例を調べる。			
3 学 期	1	商品開発とデザイン		パッケージデザインを作成する実習を行う。		6	
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能		商品開発に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。 顧客満足を実現することの重要性について理解したうえで商品の企画ができているか。		定期考査による評価 課題・提出物等による評価			
思考・判断・表現		商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して思考を深めているか。 身につけた知識を活用して適切に判断しているか。また、企画についてわかりやすく発表できたか。		授業態度・課題・提出物・発表等による評価			
主体的に学習に取り組む態度		出席率・授業態度 提出物 課題の提出状況等		出席状況・授業態度・課題・提出物等による評価			

教科名	ビジネス	科目名	コミュニティデザイン演習	単位数	2	対象	3年生
担当者	親泊						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			自作プリント				70
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	ガイダンス・コミュニティデザインについて		学校設定科目としての「コミュニティデザイン」の理解			30
	5	豊島区子ども若者課プロジェクト		豊島区の子ども若者課と連携した取り組みを実施。基礎知識としての豊島区の理解			
	6	豊島区子ども若者課プロジェクト		豊島区の子ども若者課と連携した取り組みを実施。基礎知識としての豊島区の理解			
	7	豊島区子ども若者課プロジェクト		豊島区の子ども若者課と連携した取り組みを実施。基礎知識としての豊島区の理解			
2 学 期	9	コミュニティデザインの事例研究		コミュニティデザインの事例からの講義・活動			35
	10	コミュニティデザインの事例研究		コミュニティデザインの事例からの講義・活動			
	11	自己研究（ハローマイプロジェクト）		様々なコミュニティの研究を実施する			
	12	自己研究（ハローマイプロジェクト）		様々なコミュニティの研究を実施する			
3 学 期	1	自己研究（ハローマイプロジェクト）		様々なコミュニティの研究を実施する			5
	2	自己研究発表会		様々なコミュニティの研究を発表する			
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	プロジェクト下の活動 提出課題[活動の定着度]			実践活動とプレゼンテーション評価 提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・表現	提出課題[課題の完成度] 論述による完成度			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			ポートフォリオ・コミュニティデザインノート評価			

教科名	ビジネス	科目名	ビジネス経済応用	単位数	2	対象	3学年
担当者	親泊 寛昌						
使用教科書			使用教材			年間授業時数	
ビジネス経済応用：実務出版			ビジネス経済応用問題集：実務出版			70	
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	オリエンテーション 産業構造の変化と労働		企業経営の基礎、基本もしっかりと理解する。			30
	5	企業経営の特色と外部環境・内部環境について		企業経営の基礎、基本もしっかりと理解する。			
	6	サービス産業の現状		サービスに特化した企業経営の基礎、基本もしっかりと理解する。			
	7	国際経済とグローバル企業について		国際経済を学ぶために実際の企業と連携した授業を実施する。			
2 学 期	9	パナソニック株式会社との連携授業 オリンピック・パラリンピックに関する企業経営について		パナソニックとの連携した授業から経営の基礎、基本を学ぶとともに知的財産権や社会貢献についての理解を深める			30
	10	パナソニック株式会社との連携授業 オリンピック・パラリンピックに関する企業経営について		パナソニックとの連携した授業から経営の基礎、基本を学ぶとともに知的財産権や社会貢献についての理解を深める			
	11	パナソニック株式会社との連携授業 オリンピック・パラリンピックに関する企業経営について		パナソニックとの連携した授業から経営の基礎、基本を学ぶとともに知的財産権や社会貢献についての理解を深める			
	12	企業経営の社会的責任とSDG, s		企業経営の中のCSR活動の状況理解とSDG, sの取り組みを理解する。			
3 学 期	1	企業経営の社会的責任とSDG, s		企業経営の中のCSR活動の状況理解とSDG, sの取り組みを理解する。			10
	2	論述発表		経済と経営に関する論述をまとめ、社会の経済・経営の影響を理解させる。			
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	学期末（知識技能）筆記テスト 提出課題[論述の習熟度・定着度]			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
思考・判断・表現	提出課題[課題の完成度] 論述による完成度			筆記・論述完成度評価 提出課題 課題評価表による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 ファイル提出 提出課題提出状況			ポートフォリオ・経済応用ノート評価			

教科名	商業	科目名	会計総合	単位数	4	対象	HR31～HR36
担当者	福田秀隆						
使用教科書			使用教材				年間授業時数
なし			全商簿記実務検定1級・日商簿記検定2級問題集				140
学期	月	指導内容		指導目標			時数
1 学 期	4	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 株主資本等変動計算書等の問題 第3問 決算の問題			58
	5	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題			
	6	・全商簿記実務検定1級 ・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 株主資本等変動計算書等の問題 第3問 決算の問題 全商簿記実務検定1級・日商簿記検定2級受験			
	7	・日商簿記検定2級出題範囲 ・期末確認テスト		まとめ			
2 学 期	9	・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 株主資本等変動計算書等の問題 第3問 決算の問題			68
	10	・日商簿記検定2級出題範囲 ・確認テスト		第1問 仕訳の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題			
	11	・日商簿記検定2級出題範囲		第1問 仕訳の問題 第2問 株主資本等変動計算書等の問題 第3問 決算の問題 日商簿記検定2級受験			
	12	・日商簿記検定2級出題範囲 ・期末確認テスト		まとめ			
3 学 期	1	・日商簿記検定2級出題範囲 ・まとめ		第1問 仕訳の問題 第2問 株主資本等変動計算書等の問題 第3問 決算の問題 第4問・第5問 工業簿記の問題			14
	2						
	3						
評価の観点				評価の方法			
知識・技能	期末確認テスト等 提出課題[実技による習熟度・定着度]			期末確認テスト等による評価 提出課題による評価			
思考・判断・表現	会計の原理を活用しての論理的思考 財務諸表作成における完成度 電卓を使用した計算技術			仕訳・帳簿・財務諸表作成技術による評価 提出課題による評価			
主体的に学習に取り組む態度	出席率・授業態度 提出課題状況等			・自主性・正確性等による総合評価			